THE LORDSBURG TIMES
-23-
5-24-43

ロズバーグ日本人収容所
ロズバーグ時報
知事局五月二十四日(月)

アッツ島奪還の教訓

過ちを再びせざる覚悟

今日のエルパソタイムス社説次の如し

『我が米国兵はアッツ奪還戦に二週間を費したが今尚ほ頑強なる敵の逆襲に遭つてゐる。敵は過去一年間に近代的戦時的防備のあらん限りを費してゐるから我軍は上陸に際して一方ならぬ辛き目に會つた。それでも勝算はあるのだが其の犠牲が何れ程か想像が出来ない程だ然し之を奪還せば彼等が築いた基地を我が軍が利用出来る之に依つて日本に対し愈々攻勢がとれる故に之以上の蛇足を加へる必要はないが米国市民として質疑する権利あることは何故過去やがて二年もの永い間この三島を日本に與へて居たかといふ疑問である。疾つくの昔に彼等を掃蕩してゐなければならぬといふのが常識である。慎莫我等の学んだ高價なるこのアッツ奪還の教訓こそ将来の我国を律することと少からずであらう』

日本空軍アッツ救援

十五台の日本爆撃機はアッツ島の警備隊救援の為め猛烈なる妨害を我が軍に対し試みたが成功しなかつたとノックス海相は発表した。同日本空軍はパラムシロから飛来したものかと考へられてゐると

米兵戦死五千超過

東京放送は次の如く傳へた

『日本軍部情報部長矢野那賀夫少将は曰くアッツ島日本警備軍は断然不落の軍事的重要地点に據り最後の五分迄の必勝を期して防戦中なり敵の戦死者五千名を超過す』

土蜘蛛のやうな日本兵

従軍記者の苦戦談

アッツ上陸隊附従軍記者UP特信全山白雪に被れ氷結されて居るアッツ島へ上陸した我が米国軍は山岳の要塞十ヶ所に機関銃座を備へた日本軍に眼下の位置である。マサカー湾から進撃せねばならぬ故其の苦戦は想像に余りある。深い霧に包まれ要害の地を占めてゐる日本軍は我軍を引き付けては天邊から猛射を浴びせかけて来る勇敢なる我軍は長距離砲を以つて敵の要塞を破壊して居るが悪天候に阻まれて攻撃力が完全とは言へない。殊に日本軍は色々のツリックを用いて我軍を苦しめんとして居る。彼等は狐の穴を利用しトンネルを穿ち出所進退を自由にして居る。接近すれば手榴弾と機関銃のお見舞。狐の穴を掘り下げ地下に十字線のトンネルを作つて前線への師令は笛をもつてやつて居るといふ。狡猾さだ。ラジオも電信機も持たぬ我軍の苦戦は実に酷い攻撃戦である。(ラッセル・アナベル記者)

タフト未亡人逝く

前大統領並に大審院判事であつたウイリアム・H・タフトの未亡人は五月二十二日華府自邸で逝去した享年八十一。現オハヨー出身上院議員ロバート・タフトの母であり本日午後二時アーリントン墓地で葬儀執行した

交換船出発期迫る

日本の意向として米国々務省で発表したことは現在の所では千五百人と其の数を限つて米国戦時捕虜と同数の日本人と交換する旨通知があつたといふ(三面参照)

次期大統領は誰ぞ

明年のアブセンチーヴォートは全票の五分の一の多数に達するが蓋しこの投票こそ一九四四年度の大統領が誰になるかを物語る唯一の標準であると観測さる

ストライキ續出す

CIOのUAW(オーカー九千人はオハヨー州アーロンのファイヤストーンラバ会社及グッドリッチ会社に対し罷業闘始した

一時間三仙値上げを主張してゐる

六州の水害激甚

ミシシッピー川の洪水尚ほ増水し軍隊出動して救援に努めてゐるが其の惨状言語に絶し百年前の記録を破るばかりの増水であるといふ

ニュース

△聯合国食糧会議はテーブルクロースの不ゴリさへ意外へ捨てない程秘密にしてゐるがハーヌパインと一万本スマッダルの噂がある

△ペッパー上院議員は世界合衆国大統領にルーズヴェルトを投票すると叫ぶ

△米国のペット支那人に移民割当制を許すべく移民法改正が議会の問題となり賛成論者は之を許しても一年百数名の入国に過ぎぬと主張

米國陸海軍の戰入費

我々米國民に與へられた戰爭の價額は如何に意見を異にして居ようとも一旦議会が承認したら我々國民は此の要求に從はねばならぬ。合衆國海軍の歴史的大豫算案、貳億弐拾四億六千三百六十八万七千百九拾八弗が議会を通過した、其の數分前後に陸軍割当の大豫算案七百十八億九千八百四拾九万九千七百弗が大統領によって提出されたこの膨大なる陸海軍總豫算は壱千〇拾三億六千二百拾八万六千八百九拾八弗となり実に天文學的數字となって居る。更に過去四年間即ち千八百八十年より千九百二千五年に至り議会が承認した陸海軍の総費用に該当するのである第一世界大戰に我が米國が計上した陸海軍総豫算は驚くべき巨額であった、それですら千九百十八年が百八拾八億八千百九拾四万〇二百四拾三弗七拾九仙、翌十九年が増額されて弐百七拾億六千五百拾四万八千九百三十三弗〇二仙を議会が承認したのであったが今次の大豫算に比較すると誠に少額である我が國民は好むと好まざるに拘らず悉くが背負はされた、巨大なる豫算は決定的のもので私に於て我々が逆巡して居れない事は我々個人の上に迫って居るのであって絶対に勝利を收めねばならないのである金額の大小を考へて居る場合ではない戰爭に勝つために我々は重税にも耐へ國債を出来るだけ買ひ國家の方針と希望に添ふ義務を果すより外我々は如何ともする事は出来ない、他に方法はないのである

エルバソ・タイムスより。

第二回交換船は近く出帆

華府一國際電一本多國務省は懸案であった日本政府とのインタニュース交換の問題が業三國を通じて成立した旨を発表した今回西國が交換する人数は千五百名宛になって居るが帰國者の人選は目下整理中である。尚米國政府は三回に渡り千五百名宛の交換を希望して居るが日本政府は今回が第二回船交換を終った上何分の決定をしようとの回答であったと、因に交換船の出帆は六月上旬と見られる

砂三話社　五月號草に

かにかくに砂塵を流す肌に触れて
鮫さふ肌を思ひこがすか　野平森

誤れる祖先

（千七）

然しながら米國人は日本がこんな乱暴な事をやるのは豫期してゐる處であった。學校内で或少數は私の態度にさ誤れる考へをもって居た。然しながら私は日本人をハートする者であり校内の如何なる者とも同様米國に対しやーやしな日系市民である事を説き彼等を心服せしむる事が出来た。

又アトー三田村は米國市民たる者は誰でも或程度の犠牲を拂はなくてはならぬ其故に我々日系市民が此の犠牲を拂ふべきである

と日系市民の決意を語った

更にレーン藤原は我々が欧洲に於て今何事が起りつゝあるかを考へる時に現在の米國は何でもない。此の戰爭は我々に対し実に有益な教訓を教へてゐる即ち我々は一層動き一層勉強しなくてはならないのだ。

と真剣に語った。

眞珠湾攻撃に驚く

パールハーバの攻撃を思ひ出した連藤数子は

私共は本当にびっくりしました。どうして日本は平和な我が國土に対し攻撃したのか不思議でなりません

と話した。

ミニドカ、センターの日系市民達が如何に西洋式であるかはクリスマス、シーズンの間によく立証された。彼等は降誕祭を祝う準備に狂奔し三千六の食堂は悉く装飾されたが第十七番の食堂には小さいサンタが立ってゐる。其の上にサインがあって『ニアトル、一九四一年』とあり代表的のアメリカのファイヤープレースをポインントしてゐる。此の食堂は細長いルームであるから一方の端の方のマントルの上にはキャンドルが光りかがやきその下からスタッキングが下がってゐる即ち右のサインにより過ぎし日の人々未だに何なるものであるを意味したのである。

なかめつあかず暮の野に立つ　蘇人

やるせなき歌に慰むと吾が言へば
妻も自作を数送り来ぬ　秀丘

朝がすみ棚びける日を喜びて
砂丘の春を祭りめるかも　草丘

千人の大和男子がおのもくに
春の夕を黙しつ歩む　海人

清歌　千久万

人目かくれて春甚深のほとり
恵まれ芽ぐむ二人寄り逢れ
風がもて来る若草のかほり
もゆる思ひをつのらせる